

スズキとダイハツ、「第8回国際スマート農業 EXPO」に共同出展 ～2社協力による農家の方々の困りごと解決を通じ、農業と地域活性化を目指す～



スズキ株式会社（以下スズキ、本社：静岡県浜松市、代表取締役社長：鈴木 俊宏）とダイハツ工業株式会社（以下ダイハツ、本社：大阪府池田市、代表取締役社長：奥平 総一郎）は、2021年10月13日（水）～15日（金）に幕張メッセにて開催される「第11回農業 Week」における「第8回国際スマート農業 EXPO」に共同で出展します。（ブース小間位置：8ホール4 - 26）

スズキ、ダイハツは両社とも、農業を含めた一次産業を中心に愛用いただいている軽トラックを約60年間にわたり生産・販売し続ける中で、それぞれ、農作業に関する負担を軽減し、担い手不足や高齢化といった農家の方々の困りごとを解決できないかを常に考えてきました。

具体的な取り組みとして、スズキは2011年より自社でスズキ農園の運営に取り組んできました。また近年、電動車いすの車体を流用した農業用電動台車「モバイルムーバー」を、地元静岡の農業ベンチャー企業である株式会社エムスクエア・ラボと共同開発し、農薬散布や運搬などでの活用を検討しております。

一方ダイハツは2020年より、軽トラックに積載可能なドローンを用いた農薬散布を中心とした支援活動を、兵庫県丹波篠山市にて開始しました。通常農薬散布は重いタンクを背負いながら行う大変な作業ですが、ドローンを使うことで広い敷地に効率よく散布することが可能となり、農家の方々の負担を軽減します。この支援活動には、2021年から、スズキも参画し、両社が一体となって農家の方々の困りごと解決に向け、地域の一員となり活動を実施しています。

今回の「第8回国際スマート農業 EXPO」では、「地域を良くし、暮らしを豊かに ～空からのダイハツ、陸からのスズキ～」を出展テーマとし、両社が協力して日本の農業や地域社会を活性化していく想いを表現するため、両社の軽トラック（スズキ「キャリイ」、ダイハツ「ハイゼットトラック」）に加え、スズキの「モバイルムーバー」と、ダイハツの農業用ドローンを展示します。

今後も両社は、農家をはじめとしたお客様の暮らしに寄り添い、地域社会をより豊かにしていきたいという共通の想いのもと、お客様の困りごと解決に向けたサポート活動に、協力して取り組んでまいります。

以上